

平成 27 年度 島根県学力調査結果の概況について<江津市>

1. 小学校

【各教科調査結果】

国 語	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字のつづりについての問題の正答率が低い。 3, 4, 6 年は、目的や必要に応じて文を読み取り、考えをまとめる問題の正答率が低く、無解答率が高い。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り自分の考えを記述する問題の正答率が低く、無解答率が高い。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> 記述式解答を求める問題について正答率が低く、無解答率が高い。 式や作図条件等の意味の理解が十分に定着していない。 6 年「割合（百分率）」についての問題の正答率が低い。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な根拠を理由にあげ、現象を説明記述する問題の正答率が低い。

【意識調査結果】

強 み	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる地域の行事に参加している児童が多い。 読書が好きで、学校図書館に積極的に行っている児童が多い。
弱 み	<ul style="list-style-type: none"> 算数への関心が大きく下回る。 家庭学習の意図や方法等が十分に子どもたちに伝わっていない。 学級での学習規律の徹底、子どもたち自身による改善意識を引き出す手立て等が十分に図られていない。

2. 中学校

【各教科調査結果】

国 語	<ul style="list-style-type: none"> 記述式解答を求める問題の正答率が低い。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> 1 年は「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」が、2 年は「数学的な技能」が大きく下回る。 両学年とも、文字式を用いて考え方を説明したり、数量を捉えたりする問題の正答率が低い。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> 両学年とも、(複数の) 資料を読み取り、考察し自分の言葉で表現する問題の正答率が県に比べて、低い。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 「自然事象についての知識・理解」が下回っている。 2 年において、無解答率が高い。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> まとまりのある内容の英文の要点を読み取る問題の正答率が低い。 対話の流れをふまえて、適切な英文を書く問題の正答率が低く、無解答率が高い。

【意識調査結果】

強み	<ul style="list-style-type: none">・国語への関心が高い。・近所の人にあったときにはあいさつをしている生徒が多い。・家で学校の宿題をする生徒が多い。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・数学及び社会への関心が大きく下回る。・「めあて」と「振り返り」の実践が大きく下回る。・総合的な学習の時間で課題を立て調査する等の活動が十分に取り入れられていない。

3. 改善策について

◇課題の把握

各校において単元や領域の弱みについて把握するとともに、補充学習等を通して児童生徒への理解を深める。また、次年度の担任及び教科担当者へ弱みなど課題等を引き継ぐことで継続した指導ができるようにする。

◇指導の改善

H27年度全国学力学習状況調査結果の分析から作成した各校の「授業改善アクションプラン」について、県学力調査結果より指導効果の検証を行う。併せて、指導方法等に対する改善を図り、より充実した実践に取り組む。

◇目標の設定

次年度「自己目標評価シート（学習指導欄）」の自己目標・目標達成のための手立ての記入に当たって、「授業改善アクションプラン」及び県学力調査結果分析資料等を参考にする。管理職の指導・助言を受けながら、一層の改善を図る。

◇学校訪問の実施

市内全校において、県学力調査結果をふまえた指導改善に関わる学校訪問を3月に実施する。